マグ
から
ごと
り影
ルー
ような
ついて
のう
は生
になる
ての

回っ
ような
ずけ
邪気
がある
トラ
「お
ウサ
跳ね
ってい
たか

なん
もら
。使
うは
ドア
った

る。

小津 夜景さん　ネットで作品発表、新鋭の俳人

近年新しい才能の活躍がめざましい若手俳人の世界に突如登場し、注目を集める新鋭。結社には所属せず、ネットなどで発表する作品が話題を呼んでいる。第1句集「フラワーズ・カンフー」（ふらんす堂）でこのほど田中裕明賞を受賞。「俳句は言語を使ったアート」といい、類想のない句を書き継いでいる。

〈あたたかなたぶらぶらさなり雨のふる〉。巻頭句は明るくやわらかな響きを持つア段の音を重ねつつ、「白紙」を意味するラテン語（「タブララサ」）を詠みこんだ凝った作品だ。「句の外枠は明るく軽やかで、でも内側に観念や哲学的な何かがにじんでいるような、そんな俳句を作れれば」

フランス在住。2013年に俳誌が主催する賞に応募するまで、句作の経験は全くなかったという。「20代のころ短歌を作ろうとしたが、才能がないと思った。評論を書きたいとも思ったが、続ける胆力がなかった。俳句は短い中に現象そのものだけを表す詩型。瞬発力で作るその表現に強さを感じた」

俳句は言語を使ったアート

〈蓮喰ひ人ねむるや櫂のない小舟〉〈パロル吸ひテロルを吐くや水鏡〉。新古今和歌集やヨーロッパの文学・哲学に親しんできた知的な句風。その一方で、〈鳴る胸に触れたら雲雀なのでした〉〈夏はあるかつてあつたといふごとく〉などの句には美しい叙情が息づき、読み手の心に残る。

日常生活の中に材を求めず、写生句も少ない。「私的なことを詠む気はない。ただ『文字が今ここに現れた』という（印象を与える）俳句を書いていきたいと思う。そしてその句を、ふだん俳句を読まない人、でも古典的な文学に興味を持つような人に読んでもらえたらうれしい」。44歳。

る。

（音楽評論家）□

控えさせ
学問は
相応にい
その者た
方で足を
くやもし
鞘から刀
てがうこ
「大事な
なぁ一理
ねぇとい
手をさせ
こうして
交易のこ
俺たちの
思わねぇ
思いつ
「そうで
あるくら
福地は
ばかり慎
というこ